

海を照らす灯台のなかまたち

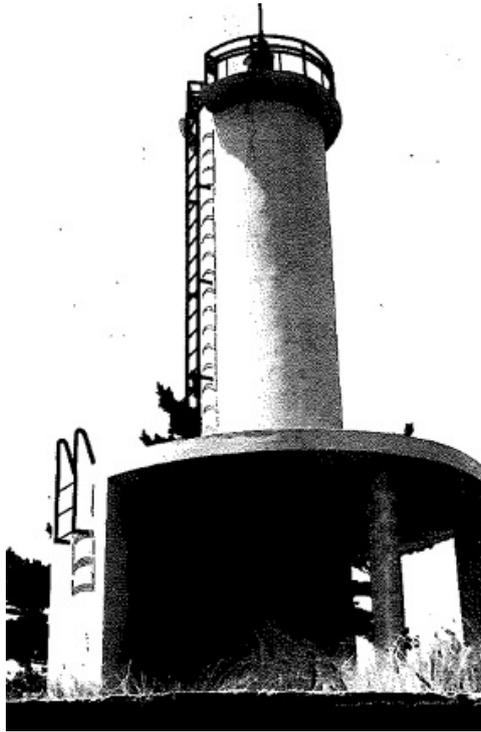
～大良埼灯台（おおらさきとうだい）～

大良埼灯台は、豊後水道や八幡浜港から宇和島港や吉田港へ入出港するための重要な目標となる標識です。



この灯台は、1953年（昭和28年）に設置されました。

現在の灯塔はFRP（Fiber Reinforced Plastics、繊維強化プラスチック）製ですが、設置当初はコンクリート造りで、ガス灯器と300mm レンズの組合せにより、光度160cd、光達距離8海里であったとの記録が残っています。



【昭和38年頃の大良埼灯台】



【現在の灯塔全景】

灯台は岬（埼）の先端ではなく、その先の潮が満ちると渡ることができない「小島」上にあります。



【小島に建つ大良埼灯台】



【灯台付近の海図】

宇和島市吉田町（旧北宇和郡吉田町）には、町内の風光明媚な場所を紹介する「吉田十景」というのがあり、「大良の鼻と小島の灯台」もその一つに数えられています。

吉田町は、みかん王国愛媛の中においても八幡浜市、西予市と並んで柑橘類の栽培が盛んで、「温州みかん日本一」の町と言われており、愛媛県立の「みかん研究所」も同町に所在し、「紅プリンセス」や「甘平」、「紅まどんな」などのブランド品種を生み出しています。

○大良埼灯台要項

所在地	愛媛県宇和島市（大良埼）
塗色・構造	白色、塔形（FRP造）
灯質	等明暗白光 明3秒暗3秒
光達距離	8.0海里（約14.8km）
高さ	地上から構造物の頂部まで 11.01m
	平均水面上から灯火まで 29.80m
	地上から灯火まで 10.89m